

1989年1月1日発行

J.P.C

謹賀新年



No.42



新年のごあいさつ

株式会社コマキ楽器社長 小牧 正明

皆様お元気に新年をお迎えのことと思います。

昨年一年間、多くのオーケストラが海外から来日し、数多くのアーティストの方々がパーカッションセンターやドラムシティにお立ち寄り下さいました。

会員の皆様に、このチャンスに何とかクリニック等を、と企画致しましたが少ない時間の中でなかなか日時の調節等ができず開催出来ずに終わってしまったものもあり非常に残念に思っております。この間色々と情報をくださったりコンタクトを取ってくださった諸先生、会員の皆様に心よりお礼を申し上げます。

昨年のお正月号でお話した各地でのクリニックもいくつか開催をいたしました。今年はもっと数を増やしていきたいと思っております。お近くでJPCのクリニックが行われる時は会員カードをお忘れなく是非ご参加ください。

本年はJPC創立13周年にあたります。一つの区切りとしてパーカッションのソフトを見直し原点に戻って新たな出発点といたく色々準備をしております。きっと皆様によりご満足頂ける会になることと確心しております。どうぞご期待ください。

本年が皆様にとって素晴らしい一年でありますように心からお祈り申し上げます。

明けまして おめでとうございます



7F スタッフ
南平、石郷岡、小川

JPC スタッフ
石井、中村、成田、
小牧(明)



音楽センター
スタッフ
太田、大場

Drum City
スタッフ
堤、藤原、市井



新人デス
島上 飯田



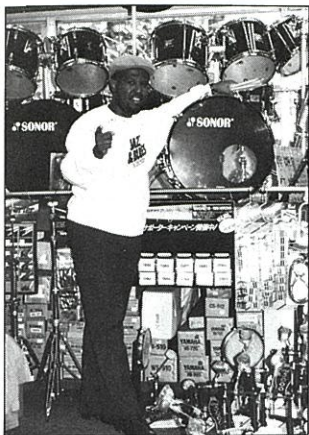
外販
スタッフ
香取、黒沢



商品事業部
スタッフ
小牧(修)、近藤、萬



「ニューオリンズからの珍客」



“Hi-good morning!”と言いながら、ジョージ・デュークの様な顔に万遍なく笑を浮かべながら、今日もまたスタンリーおじさんがドラムシティーにやって来た。

例によって開店直後朝一番の忙しい時間を狙って登場してくるのである。そしてドラムシティーの3人のスタッフの迷惑もかえりみず我も顔で店内をパニックに陥れるのです。それはまさにドラムシティーにとって地獄のような一週間の出来事でした。実はこのスタンリーおじさんフルネームをStanley A.Stephensと言ってルイス・ネルソン・ニューオリンズ・ジャズバンドのドラマーなんです。

このバンドが昨年に引き続き、“浅草おかみさんの会”主催のまねきで11月21日から29日まで浅草常盤座にてコンサートを開いていたのです。ドラムシティーとは目と鼻の先の場所なんです。近くにそんな場所があれば誰でも一度は覗いてみようかという気持ちにもなるが、一週間毎日通いづめるなんてまずしないだろう。特に最初にドラムシティーにあらわれた時は、なんと朝の10時から3時までの延々5時間も店内にいたのです。その間店内のど直ん中を陣取ってビデオテープをとっかえひっかえ見たり、試奏室に入れば入ったで陽気に鼻唄など歌いながら、チンチキ、チンチキとドラムを叩き出す始末。これで終わりかと思いきや、今度は店内のスneaをとっかえひっかえ試奏室に持ち込んでまた鼻唄まじりにチンチキ、チンチキとはじまってしまうのです。そして試奏という練習が終わるとこれからはまた一難。今度は先程叩いたスneaについてあれやこれや質問の嵐がやってくるのです。何せ相手はアメリカ人。当然出てくる言葉は全てイングリッシュだからたまったもんじやない。我らドラムシティー平均年齢32才のスタッフ3人、このうち誰一人として英語に精通しているものはいない。そうです、言葉の壁が我々3人の前にたちふさがっているのです。

しかしドラムシティー3人のスタッフは、それぞれの個性をいかんなく発揮してコミュニケーションをはかりとう努力しました。フロアマネージャーのT氏は、昔とったきねづかで大筋は通じた感じ。主任のF氏は単語羅列のオンパレード。平のI氏は地元西川口の英会話教室での成果をためそうと意気込んで立ち向かっていったが、歯がたたないとわかるとC調に相づちをうち、何を聞かれてもYesとしか答えようがなかった。3人3様の努力は何とか報われ意志の疎通を図ることができま

した。こんな事が一週間続いたのだからたまりません。この他にもシンバルをあれやこれや引っぱりだしては叩きまわったり、またある時は、写真を撮ればやたらポーズを作らし、あげくの果てには、頼んでもいないのに“サインを書くから色紙をよこせ”だとか、“俺はインターナショナルで有名なんだ”とかプロ意識も強く、お口の方もこれまた達者だからたままりません。店内にいればあれこれいじりまわしての質問攻めに合うので、ある日一緒に昼食に連れていこうと考えついた。そうすれば、店内静かになるはずとフロアマネージャーのT氏は思いついたのです。だがそれは甘い考えに過ぎなかったのです。

ミートスパゲティが食べたいというので近くのレストランへ行き3人で食事をしたが出てきたミートスパゲティを見るなりウエイトレスを呼び止めて“もっとミートソースをかけてほしい”と言いついた。スタンリーにかぎらずアメリカ人はこういうことを平気でやるんです。スパゲティを食べ終わる頃になって今度は“ポタートーストが食べたい”と言いついた。だがこのレストランのメニューにポタートーストはありません。お店の人と交渉の上特別に作ってもらうことで一件落着。やはり他の場所でもただではすまなかった。おまけに近くの女の子のお客さんには、やたらと愛嬌をふりまいて回りから大笑いされるわ踏ん張り蹴ったりである。しかしそんな彼にドラムの事について色々たずねると興味深い事を親切に教えてくれたのです。スタンリーの住んでいる、ニューオリンズの町の事やそこで活動しているミュージシャンの事、それにボストンにある店でもとても良いカスタマイズのスneaを作っている事など雑誌などではつかみきれないアメリカの音楽業界の話しを聞く事もできました。ともかく人騒がせな反面、憎めない性格で心底陽気なおじさんでした。

ちなみにこのスタンリー初めはイスタンブールのシンバルを買うために毎日来てたのだけれどドルに換算すると400ドルにもなり本人も買うか買まいか一週間悩んでいた。結局タマのチューニングキーを3ヶ、15ドルの買い物をしただけでアメリカへ帰って行きました。いやー本当にこの1週間は、ニューオリンズからの珍客、スタンリーおじさんに振り回された悪夢の日々でした。また来年ピアノトリオで来日すると言っていました。来年もまた……。



太鼓館 - 世界の太鼓資料館 -

～ 鼓動の響き～
こころ

昭和63年5月、東京は浅草に「太鼓館」がお目見えした。新聞やTVでもうご存知の方も多いと思うが、まだ知らない方々に陳列されている太鼓をご紹介します。初詣帰りに立寄ってみてはいかが？

「太鼓館」は、浅草にある大手祭礼製造販売会社、宮本卯之助商店の西浅草店4階にある。祭礼製造、つまり、神棚やお神輿や獅子頭やら、和太鼓全般を製造、販売しているということ、なるほどそれなら資料館が出来ても不思議はないなと思って行ってみると、和太鼓どころか、世界中の太鼓が陳列されているのにびっくり。それも殆んどあまり見たこともないものばかり。100年も昔のものや、使いこなされて得も言えぬ光沢を帯びたもの、楽器というよりも芸術品と言いたくなるものなど、貴重かつ価値の高い太鼓が、あるものは壁際にお行儀良く、あるものはインテリアのように何気なく置かれている。

何よりも嬉しいのは、これらの貴重な太鼓たちの殆んどに触れて叩けること。そのうえ各楽器に丁寧な説明書きがあるので、その国や地方を想像しながら音を聞けて、そうしていると、タイムマシンに乗ったりワープをしているようで、時が経つのを忘れてしまう。

今回、陳列されている数百点の太鼓の中から13点をご紹介します。(各楽器の説明は、「太鼓館」の説明書きによるもの。)

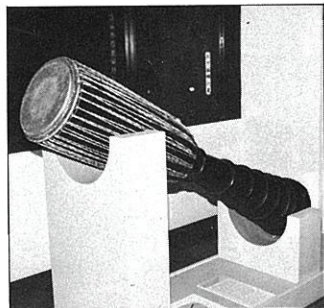
クロン・エー klong ae (タイ)

大砲に似た形をした大きな長い太鼓。主にタイの北部地域の仏教寺院で使用されている。片面鼓で胴は堅いマホガニーや紫檀の一本木を使用し、上面に水牛皮を、細くくびれた中間部で皮紐を締めて張っている。太鼓はさまざまな用途に使われる。寺院内においては活動を統制するための合図として、村の人達に対しては、一日の仕事の終了を告げたりする。12月か1月にクロン・エーの競技会も行われる。

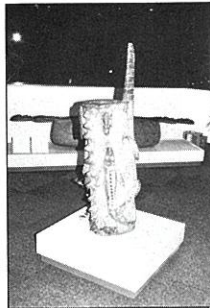
ウォーター・ドラム Water Drum (バプア・ニューギニア)

川面に落としたり浮かしたりしてポコポコと音を出す水太鼓。上下とも皮は張らず筒抜けになっている。

周期的に水中に沈め、また引き上げることにより、ウアウアUAUAと音色の変化を生じる。これはセピック川中流域で1950年頃収集されたもの。



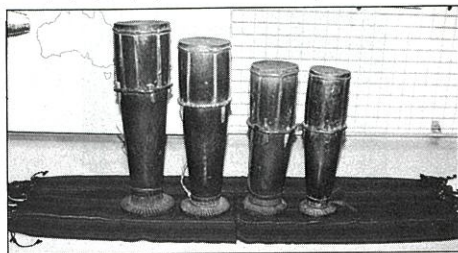
クロン・エー(タイ)



ウォーター・ドラム
(バプア・ニューギニア)

ロンボック島の太鼓 (インドネシア)

バリ島の隣、ロンボック島で使われている片面鼓。くりぬき胴で底が安定するように平らになっている。牛皮を上面に張り、細竹で胴の中間部にくり付け、くさびを打ち込んで止める。マレーシアのグトゥンバックとも似ている。



ロンボック島の太鼓(インドネシア)

ティモール島の組太鼓 (インドネシア)

インドネシア、大スンダ列島の東方に位置するティモール島で使用されている片面張りの杵太鼓。15個1組で数人の奏者によって演奏される。

雨季に入る行事としての「雨乞い」の儀式をする時に若者によって踊り歌われる「水の歌」の伴奏に用いられる。



ティモール島の組太鼓(インドネシア)
奥に2つ並んでいるのは中国のタグ。

ダラブッカ Darabukka (エジプト)

中近東、アラブ、エジプトなどに広く分布する片面鼓。胴体は素焼きの土。外側を象牙やラクダの骨、貝などで象眼されているものが多い。皮は魚の皮や羊の皮を使用する。片膝の上に横に置き、ひじで押さえて両手で軽く打つ。中央で手のひらを使い低い音を、棹近くではおもに指を使って膜面をはじき、強く乾いた音を出す。

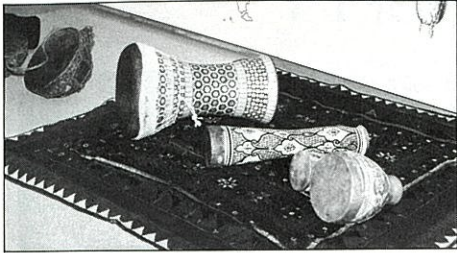
トビラート Tbilat (モロッコ)

別名タリージャTarijaとも呼ばれ、ナッカラの流れをくむ。胴は陶器でつくられ、生鬚をささげた山羊が張られている。モロッコの子供達は回教歴の新たな日から数えて10日目のアシュラの祭りにこのタリージャを買ってもらう。

デルビーカ Darabuka (モロッコ)

胴は陶器でつくられ、山羊皮が張られている。奏者は脇に抱えて打つ。

ホワラHouwaraとも呼ばれ、イスラム文化圏に広く分布する。採色された模様は、モスク(イスラム寺院)建築の壁面に描かれたモチーフを用いている。



布の上向って
左より
ダラブッカ
(エジプト)
デルピーカ
(モロッコ)
トビラート
(モロッコ)
左端はナッカラ

セマフォ族の太鼓(コート・ジボアール)

北部バンダマ川支流に住むセマフォ族の祭礼用太鼓。一木造り。
子孫繁栄のシンボルである宝貝が四方に飾られ、多産系の女性像が手を高く挙げて鼓面部を支えている。

女子の成人儀式に特に使用された。

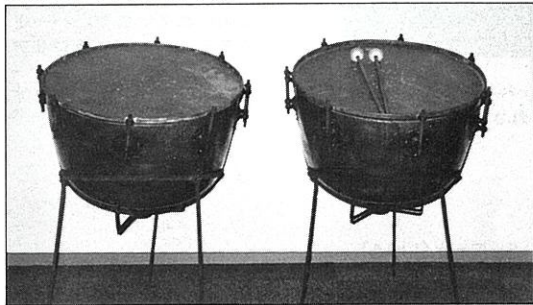
スクリュウ・ティンパニ(ドイツ)

18世紀中頃のもの。胴体は銅の打ち出して、底の丸い穴がそのまま内側にラップ状に広がり音量を増幅している。従来のスクリュウ・ティンパニと違って、フレッシュ・フープとカウンター・フープが一体化していて、皮を巻いたフープを直接ボルトで締めるようになっている。



セマフォ族の太鼓(コート・ジボアール)

スクリュウ・ティンパニ(ドイツ)



スクリュウ・ティンパニ(イギリス)

1780年から1800年頃に製作されたもの。

ピッコロ・ケトル・ドラム(イギリス)

1830年頃のもので、ケトルにカンタベリー市の紋章が描かれている。サイズは非常に小さく、直径16インチ程度。ヘッドはプラスチックヘッドを張っている。

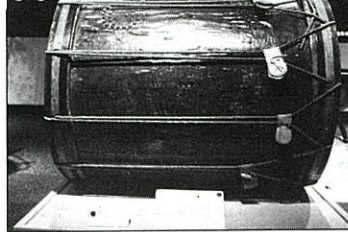


前列向って左より
ピッコロ・ケトル・
ドラム(イギリス)ス
クリュウ・ティンパ
ニ(イギリス)

バス・ドラム(イギリス)

胴をキャンバス布が覆っていて、英国王室の紋章が描かれている。

鉄釘でGR(George Royal)と打ち込まれていることから英国のジョージ三世(1738~1820)の統治時代1760年より1820年頃に王室軍楽隊で使用していたものであることがわかる。



↑イギリスの太鼓。前列左よりバス・ドラム、テナー・ドラム、後列左よりスクリュウ・ティンパニ、ピッコロ・ケトル・ドラム

バス・ドラム(イギリス)

この他、アメリカ・インディアン楽器、アフリカ各国、インドの楽器等もあり、雅楽用のものも含めて和太鼓も数種類陳列している。ガラスケースに並んでいるダマルはちよつと変わった物で出来ている。何で出来ているかは館長の越智さんに聞いてみると良い。とても気さくな女性で親切に教えてくれる。

「太鼓館」の所有している太鼓の数は300点余。年に3回程楽器の入れ替えをするので時期を見計らって足を運べば全ての楽器を見ることが出来る。

アフリカの太鼓が陳列されている一角



↓不思議なダマルのあるガラスケース



また、準備が整い次第、レクチャー等も開催する予定になっているのでコマキ楽器が行っているクリニックとは別の世界を覗くことが出来るだろう。
(by M. Ishii)

「太鼓館」の所在地等は次のとおり。
所在地/〒111 東京都台東区西浅草2-1-1

宮本卯之助商店西浅草店 4F

Tel 03-842-5622

入館料/大人200円、小人100円

開館時間/AM10:00~PM5:00

休館日/月・火曜日



New!

↑↑新入荷 新製品ご紹介↑↑



1、PREMIER(UK)

プレミアよりマーチングスネアドラムの新星HTS-200登場。

超軽量プロジェクターシリーズで人気を呼ぶプレミアが、ガンドラムみたいなマーチングスネアを発表した。HTSとはHigh Tension Snareの略。もともとパイプ・バンド用なのでスナッピーは上下に装着されている。既にヨーロッパじゃ大人気だそうで、聞くところによればニュージーランドあたりでも売れまくっているらしい。

まず上部の内部スナッピー。2.5インチの幅広スナッピーがぴったりとヘッドの裏にくっついています。現行のS-80は普通のスナッピーが装着されていて、シェルの側面についているレバーによってON-OFFの操作をしますがHTS-200はスネア・キーで操作します。…ということは、スナッピーの当り具合を微妙に変えられるということなのであります。よりセンシティブかつ正確なスナッピーのセットが可能、ということですね。

次にボトムスナッピー。こちらは、最近ますます増えているファイバーラインのような厚い繊維風ヘッドの使用によってボトムスナッピーが敏感に反応できなくなっているとしてプレミアさんは考えました。張力調整は従来のパラレルアクションのタイプですが、ON-OFFはスナッピーを押さえている2本のボルトの調整によって行います。上部スナッピーと同様、こちらでも微調整ができるので、よりセンシティブかつ正確なスナッピーのセットが可能、ということになります。(このフレーズはプレミアの宣伝文句ですネ)

そしてシェル。「Independent Shell」と名付けられてる厚さ5mmのパーチシェルは共鳴を最大限に活かすために謂るフリーフローティングになっています。

特筆すべきはリムであります。材質はアルミダイカスト。すっごいのは上部のリムが2段構えになっていてテンションの圧力からヘッドを守っているのです。つまり、上のリムがヘッドを押え、そのリムごと下のリムが引っ張るという寸法。これでテンションのかけすぎでヘッドが抜けたりすることが無くなるわけですね。実際、相当のテンションをかけてもバリバリバラバラ平気な顔して明るく鳴ってます。テンションボルトは12本。

通常はファイバーラインヘッドを装着してますが他のフィールド用ヘッドでも面白そう。 HTS-200 ¥150,000

2、PERCUSSION創刊(USA)

廃刊された『パーカッションナー』の流れを受け継いで創刊された雑誌が、『パーカッション』。内容もパーカッションナーと全く同じもの。

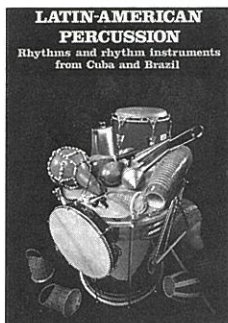
創刊号はデビッド・ガリバルディのドラムテクニックを「Groan Men Counting」から全てピックアップした譜面をトップに、ジョージ・マーシュ、ゲーリー・チャフィーのドラムテクニック・クリニック、バークレー音楽院のパーカッション・アンサンブル、ジョン・ベックのスネアドラム・クリニックなど、他に、タブラやティンパニーのクリニックもある。この号で興味深いのは、アル・グリーンウエルの「The One-handed Drum Roll」。読んで字の如く、片手でロールします、という

やつ。ただロールをご披露するだけじゃなく3連、5連、6連、7連の末にダーッとロールしてくれちゃう。右手はちゃんとシンバル・レガートやってるからびっくり。ご丁寧に写真説明まで載っている。

カセットテープ付¥2,100



3、LATIN-AMERICAN PERCUSSION(USA)



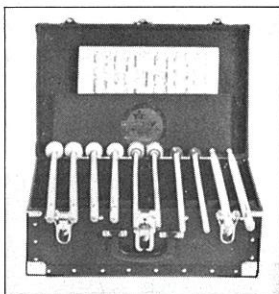
ラテン・パーカッションのリズムパターンを集大成したメソッドが、何とデンマーク人の手によって完成しました。184ページから成る分厚い本に教本カセットテープ3本がセットされていて10,000円也。

教則本の内容はパートIとしてラテン・パーカッション各々の説明、奏法、基本的なリズムパターンが写真も取り入れながら微に入り、細に入り説明されています。パートIIはキューバン、ブラジリアン、カリブソのリズム・パターンをパーカッションスコアにして20種類ほど紹介しています。これさえあれば100人力!?

4、Vic Firth(USA)

数カ月前スティックの新製品を発表したヴィック・ファースから新入荷と新製品をひとつずつ。

まずは写真のようなマレット・ケース。ファイバー製で軽いんだけど何せデカイのだ。仕切りも何も無いからBDマレットも入るしスティック何百本も入る(ホントかな?)。小物ケースにまでなっちゃいます。フタの内側にポケットがあるから楽譜も入りますヨ。(¥16,000)



お次は写真で見せる必要も無さそうなシロモノ。うーん、これはジョークだろうか、ファース氏は真剣なんだろうか。シロモノの名前はティンパニ・マフラー。直径13cm、厚さ約1cmのこげ茶のフェルトに鮮やかなブルーの紐がくっついています。フェルトにはちゃんんとVic Firthのロゴも印刷されています。2枚1組で1400円也…は高いか安いかな?

JPCオススメ、太鼓が聞ける店

エスニックな料理も音楽もいっぺんに楽しめてしまうのがここ吉祥寺の羅宇屋。店内は徹底したインド調一色。一步踏み込むとすぐ右側に小さな部屋があり、楽器、レコード、書籍、民芸品等のエスニック・グッズが揃ってしまう。この部屋をサンギートガルー（音楽の家）と呼びその周囲のお庭で食事をし、水曜日と日曜日には楽士達が集まってきて演奏が繰り広げられる、という素敵なシナリオのあるお店なのです。



シタール奏者として、またこ羅宇屋の経営者としてご多忙な若林忠宏さんの奏でるシタールと梯都夫さんのタブラの共演には時間を忘れさせてくれるエネルギーを感じるのです。

水曜日と日曜日の楽士達の演奏は、インド音楽を基本とし最近では幅広い世界各国の音楽が聴けます。そして各国の料理をスペシャルメニューとして¥700～¥900で食べさせてくれるのも嬉しい。因みにラオヤカレー（¥450）とバルフィー（ココナッツのケーキ¥180）は一度ご賞味アレ。

JR中央線吉祥寺駅下車 南口丸井そば 弥生ビルB1
TEL 0422-46-8533

＝ 羅 宇 屋 ＝
ら お や

ライブ/19:00～(水、日のみ)
休日/月曜日
チャーシ/無料(但し、月一度のスペシャルライブは¥1500)

★ 新春コンサート案内 ★

♪ 吉岡孝悦ニューイヤー・マリimbaコンサート

1月4日(水) 午後7時～
ルーテル市ヶ谷センター(JR市ヶ谷下車)
¥2,500 (全席自由)
—プログラム—
ウィリアムテル序曲
アメリカン・パトロール
チゴイネルワイセン、他

♪ 東京芸術大学打楽器アンサンブル

2月28日(木) 午後7時～
江東文化センター(地下鉄東西線東陽町下車)
¥1,500 (全席自由)
—プログラム—
オグン・バダグリス K.ローゼ作曲
オブジェ I 菅野由弘作曲
プレアデス I.クセナキス作曲

上野信一打楽器リサイタルの期日が決まりました!

体調不調等のため、去る88年11月26日のリサイタルを勝手ながら下記の如く延期させて頂きました。11月にご来場を予定して下さいの方々には、ご迷惑をおかけ致しました事を深くお詫び致します。時刻、場所、プログラムは当初と同じです。

- 1989年1月14日(土)P.M.7:00
 - 石橋メモリアルホール ●¥3000(全席自由)
- 楽しいコンサートにしたいと思っておりますので皆様どうぞお誘いあわせの上、おいで下さい。チケットのご用命は、サウンド・ギャラリー(351-4041)、J.P.C.(845-3041)(¥2,700)まで。なお既にチケットをお求め下さっている方はそのままご使用下さい。

吉例!

年に一度の決算バーゲンセール!!

1989年1月3日(木)正午OPEN!!



1月29日(日)まで!!

お正月ときたらコマキのバーゲン!!
在庫一掃売りに売りますどこまでも!!
欲しいものがたくさんあります!!

※1月3日～4日の営業時間にご注意ください。



まだまだ恒例! お年玉ビッグプレゼント

し・り・と・り・Qクイズ

☆解き方

あいているマス目に矢印の方向に従ってシトリをしながらかいてください。渦巻状になっていますから最後は真中の★印の手前で終わります。完成したら灰色のマス目の7文字を組み合わせてある楽器の名前になります。これを答えとしてハガキに書いて送ってください。

〈例〉①スネアドラムをたたくとき使うもの、②甘い西洋の焼き菓子

① ス テ ィ ッ ク ② ッ キ ー

☆応募のきまり

官製ハガキに解答、住所、氏名、年齢、電話番号、JPCNoを明記のうえ、〒111 東京都台東区西浅草1-7-1 コマキビル6F「お年玉クイズ」係宛お送りください。正解者の中から抽選で素敵な賞品を差し上げます。

☆しめきりと当選者発表

- しめきり—1989年1月31日(火)必着
- 発表—会報43号誌上

☆賞品☆

- 〈特別賞〉プレミアビッコロスネアドラム#2024 (1名)
- 〈A賞〉KMKチャイナシンバル(18") (1名)
- 〈B賞〉JPCハードマレットケース (2名)
- 〈C賞〉ジルジャンオリジナルレナー (3名)
- 〈D賞〉ソナーオリジナルスポーツタオル (3名)
- 〈E賞〉特製ソナーTシャツ (5名)
- 〈F賞〉ドラムシティオリジナルスティック (10名)

〈ヒント〉

- (1)ケチャやバロンダンスで有名なインドネシアの小さな島
- (2)中国福建省のこれが一番おいしい?
- (3)沖縄本島に棲息している珍鳥
- (4)パーカッションに必須のメソ—F.N.A.R.D.の愛称は?

- (5)「サウンド・オブ・ミュージック」に出てきた唄
- (6)1988年12月現在の日本の内閣総理大臣は?
- (7)ニックネームはサッチモでした
- (8)食通をかくこ長く言うと
- (9)mPより大きくてfより小さい
- (10)最近、ペダル式が広く普及され

- て音変えがしやすくなった楽器
- (11)この都市の愛称はビッグアップル
- (12)12月25日
- (13)冬期オリンピックなどで見るスピード感あふれる競技
- (14)オレもアンタも同じ穴の○○さ

(1)	(7)								(6)
			(11)						(10)
(2)			(14)	★	(13)				
									(5)
						(12)			
							(8)		(9)
									(4)

◀JPCだより▶

●この度JPCでは、JPCに入会後10年経った方々に新しくVIPカードを発行することになりました。現行のカードにVIPのマークが入ります。このカードをお持ちの方には特典として1989年以降の会費を免除いたします。但し中途で再入会された方は再入会の年を1年目とします。

新カード発行は4月頃の予定です。今回の対象は会員番号2301番までの方です。

●昨年「スーパーカッショ」でパーカッションファンを湧かせた東京ミュージック・ジョイ。今年はジャズで迫ります。1989年1月17日(火)、18日(水)=パット・メセニーwithレ・パレエ・ジャズ・ド・モントリオール、19日(木)、20日(金)=キース・ジャレット・ソロ、21日(土)=マイケル・ブレッカー。全日とも会場は五反田ゆうぼうと簡易

保険ホール、開演は午後7時より。

21日のマイケル・ブレッカー(sax)は、ギターにパット・メセニー、ベースにチャーリー・ヘイデン、ドラムにソナー・ドラマーのアダム・ナスバウムを迎えてスペシャル・ユニットを組みます。この日は新日本フィルハーモニー交響楽団をバックにマイケルのソロも聴けます。ファン必見!!

●年始営業のお知らせ

- 1月1日～2日 年始休業させていただきます。
- 1月3日～4日 12:00～18:00まで営業いたします。
- 1月5日～ 平常通り営業いたします。
- 1月3日～29日 決算バーゲンセール
- 1月31日～2月3日 決算棚卸のため休業いたします。
- 2月4日～ リフレッシュしてオープンいたします。

表紙

セマフォ族の太鼓
太鼓館蔵

1989年1月1日発行
発行所 J・P・C事務局
〒111 東京都台東区西浅草1-7-1
郵便振替口座 東京九一五三一一五
電話〇三—八四五—三〇四—(代)
加入者(株)コマキ楽器

今年のは冷え込むそうです。ユックリと暖いお部屋で「お年玉Q」でも解いてください。1989年を有意義な年にしてくださいね。

第42号として21冊目の会報です。年間4回の発行と私でも5年経ちました。始めた頃は写真ばかりで記事も今より少なかったように思います。年一度は12ページの増刷版を発行できるようになったし、英語に強いスタッフが加わったので外タレさんにインタビューもこわくなくなりました。でも皆さんの期待に沿ってほしい。少しは進歩したかなあ。うむ。

非一度行ってみたい。ホントに是非一度行ってみたい。

の発刊として5年経ちました。始めた頃は写真ばかりで記事も今より少なかったように思います。年一度は12ページの増刷版を発行できるようになったし、英語に強いスタッフが加わったので外タレさんにインタビューもこわくなくなりました。でも皆さんの期待に沿ってほしい。少しは進歩したかなあ。うむ。

編集後記

みなさま、明けまして、おめでとうございませう。皆さんの去年の打ち上げ花火は如何でした? つかいの上空で「たあまやっつ」「かあまやっつ」の声を援を受けてどっかんノと思いつつ、切り爆発しましたか? うーん、単調な毎日を送ることを美としている私は(ウソだよ)単調な毎日を送りました。これを書いて今日、さつき、学生時代の友人から電話があったんですけど、名刺が違っていた。で、思わず「この思わすってところがなかなかね」と、「結婚しちゃったの!?」友人「うん。知らなかった?」私「うん。(机につ伏して)オメデトウ(と力無く)友人「えっへっへっ。アリガトウ(と力強く)これだもの、静かにどんな気分が静かな気持ちで行くと良いのが、本誌で紹介した「太鼓館」。タイムマシンのワープだのと書きましたが、実際何ともいえない心地良い雰囲気満ちたさ。それを部屋中が、100年以上も前に毎日々々その体を唄わせて、いつしか埃に埋もれて忘れ去られてしまった太鼓たち。ついこの前まで村びと達の手で神のようには扱われていた太鼓たち。いろんな形、いろんな色をした太鼓たちがじつと立ち、うずくまり、座っているのをながめていて静かな日々を送っていて良かったなあと、あ、ちがうか、夢の底にこんな感じがしてくるようにしなすね。それは「太鼓館」の雰囲気博物館のよう探光が良いせいもあるかも知れませんが。ホントに是非一度行ってみたい。